



■コース生(第2期生)の活動報告

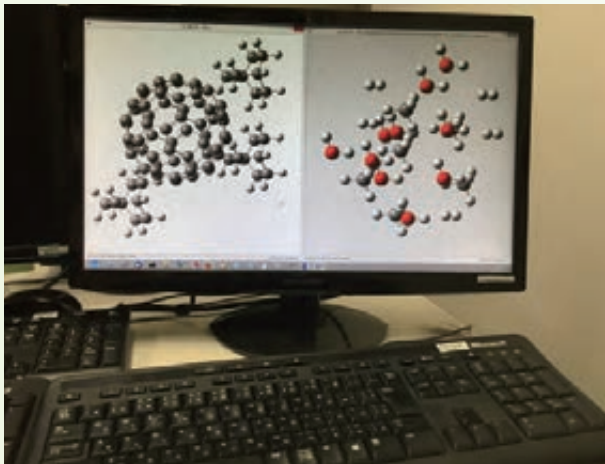


古谷 優樹

総合理工学府
量子プロセス理工学
一貫制博士3年(博士1年)

私は博士課程からグリーンアジア生として採用されました。前期では博士研究に向けて研究レビューを執筆いたしました。この際、バイオマスの有効利用技術として注目されているガス化発電に関連する100個の論文を読み、研究開発の歴史的背景を考察していきました。過去の研究をまとめていく過程で、どのようにガス化発電がどのように発展していき、実用化していったのかを知ることができ、自分の研究を俯瞰的に捉える能力が身に付きました。さらに、今後の普及に向けての課題にも気づくことができ、博士研究でのテーマがより明確になりました。

後期からは国際演習により、バイオマスガス化発電の経済的な評価にも取り組んでいます。具体的には、経済モデルを用いて、森林密度と世帯密度が異なる各都道府県ごとにガス化発電所の建設コストを推定し、最適な発電所の規模を提案していきたいと思っています。今後は海外インターンシップがありますが、国際交流やよりレベルの高い研究を知るための良い機会であると思うので、それに向けて日々英語の勉強や研究活動を進めていきたいと思っています。



平川 知明

総合理工学府
環境エネルギー工学
一貫制博士3年(博士1年)

博士課程の研究として、水の波の運動を流体力学に基づいた数値計算で調べています。私の研究は、長く単純な数式変換やプログラミングが主なので、一見すると 単調であまり面白くないようですが、それから学ぶことは毎日あって全く飽きません。少しずつですが自分なりに理論をまとめ上げることが楽しみです。現在 は、この春までに論文を投稿できるように頑張っています。

私は、修士課程ではキャンパスアジアプログラムに参加していましたが、博士課程への進学の際にグリーンアジア国際戦略プログラム(GA)に編入させて頂きました。短くもこれまでのGAでの講義を通して、エネルギー問題や研究の社会貢献の大切さに気付かされ、GAでの研究として波力発電の動向について調べています。

また、国際化が重要視される現代社会の中で、英語で行われるGAの講義では、その難しさと必要性を体感することができました。さらに、今後の国際インターンシップは素晴らしい研究者と交流

できる貴重な機会です。これら経験を最大限活かし成長するため、研究における専門性とコミュニケーション能力を日々養っていきたくと考えています。

